

令和7年度氷見市行政改革推進市民懇話会会議録

- 1 開催期日 令和7年12月18日（木）
- 2 開催場所 市役所A棟2階全員協議会室
- 3 会議時間 午前10時～正午
- 4 出席委員 赤壁 博之、大嶋 充、大舘 育仁、清水 幸雄
七分 由紀雄（高木 義則 代理）、中田 庄一、林 千昭
松原 勝久、山崎 弘善、木村 浩司、小川 徹也、田中 英雄
辻 富裕、宮本 敦子
計14名
- 5 欠席委員 南 勇樹、宮城 孝一、川邊 隆二
- 6 市出席者 菊地 正寛（市長）、篠田 伸二（副市長）、有島 洋之（教育長）
東軒 宏彰（政策統括監）、出戸 勝教（企画政策部長）
天坂 正（総務部長）、森 芳克（市民部長）
竹口 英一（産業振興部長）、足立 章夫（建設部参事）
岩根 伊都子（会計管理者）、赤倉 哲郎（防災・危機管理監）
萩原 宣雄（教育次長）、宮下 和子（秘書広報課長）
蔵田 喜之（未来戦略課長）、高林 克行（総務課長）
杉本 聡（財務課長）ほか
- 7 案 件
 - (1) 【資料1】 氷見市の行財政改革について
 - 【資料2－①・②】 「氷見市行政改革プラン」取組実績等一覧表
 - 【資料3－①・②】 氷見市中長期財政見通し（令和7年度～令和16年度）
 - (2) 質疑応答、意見交換
- 8 発言内容 別紙のとおり

発 言 内 容

後藤主査 定刻となりましたので、ただいまから令和7年度氷見市行政改革推進市民懇話会を開催いたします。委員のみなさまにはご多用のところご出席を賜り、誠にありがとうございます。はじめに市長よりご挨拶申し上げます。

菊地市長 令和7年度氷見市行政改革推進市民懇話会の開催にあたり、一言ご挨拶申し上げます。

皆さま、本日はご多用の中、本懇話会にご出席いただき誠にありがとうございます。また、日頃から市政の発展に多大なるご理解とご協力を賜っておりますとともに、この度は行政改革推進市民懇話会委員の就任を快くお引き受けいただき、深く感謝申し上げます。

さて、現行の「氷見市行政改革プラン」は令和4年度から令和8年度までを計画期間とし、持続的発展が可能な行財政運営を目指しております。組織・人材、財源など限られた経営資源を有効活用するとともに、デジタル技術を活用した効率的かつ効果的な行政サービスの推進に取り組んでいます。

本日は、計画期間の3年目である令和6年度が終了し、設定した取り組み項目の実績や進捗状況について委員の皆様にご報告させていただきます。また、現時点での中長期の財政見通しをお示しし、今後の取り組みについてのご意見やご助言をお伺いするものです。

市長就任以来、能登半島地震からの復旧復興を最優先課題とし、被災された皆様の声をお聴きしながら、1日も早く安心した暮らしを取り戻せるよう、スピード感を持って取り組むとともに、「活力とにぎわいのある『ひみ』」を創造していくため、「未来づくり」、「地域づくり」、「産業づくり」の3つを政策の柱として、本市を取り巻く課題の解決と更なる発展に向け取り組んでいるところであります。

市民の皆様が氷見市の明るい将来を思い描けるよう、復旧復興に向けた取り組みはもちろん、人口減少や地域の過疎化などの課題にしっかりと対応し、氷見市が震災以前にも増して活力あふれるまちとなるよう全力を尽くしてまいります。

復興の先にある氷見市の未来を創っていくためには、行政運営のベースとなる行政改革プランを着実に推進していく必要があります。

皆様方から頂戴したご意見等を本プランに反映させることにより、本市の行政改革の一層の推進を図り、持続可能な自治体経営の確立に努めてまいりますので、委員の皆様には、忌憚のないご意見を賜りますようお願い申し上げます。

本日はよろしくお願いいたします。

後藤主査　本題の協議事項に入ります前に、委員のみなさまのご紹介をさせていただきます。

氷見青年会議所理事長の赤壁様です。

氷見市自治振興委員連合会会長の大嶋様です。

氷見市小中学校PTA連合会会長の大館様です。

氷見市商工会議所会頭の清水様です。

氷見市社会福祉協議会会長　高木様の代理、七分様です。

氷見市老人クラブ連合会会長の中田様です。

氷見市連合婦人会会長の林様です。

氷見市観光協会代表理事会長の松原様です。

氷見漁業協同組合代表理事組合長の山崎様です。

氷見市金融協会会長の木村様です。

連合富山高岡地域協議会氷見地区協議会副議長の小川様です。

氷見市特別職報酬等審議会委員、税理士の田中様です。

氷見市コンプライアンス委員の辻様です。

氷見市商工会議所議員、社会保険労務士の宮本様です。

なお、南委員、宮城委員、川邊委員につきましては、本日欠席のご連絡をいただいております。

次に、会長と副会長の指名ですが、氷見市行政改革推進市民懇話会設置要綱に基づき、市長が指名することとなっております。このたび、会長を自治振興委員連合会会長の大嶋様に、副会長を氷見市連合婦人会会長の林様に指名させていただきました。

よろしくお願いいたします。

それでは、大嶋様、林様には会長席、副会長席にお移りいただきまして、大嶋会長にはこれより進行をお願いしたいと思います。

大嶋会長 今ほどご指名いただきました大嶋でございます。皆様方のご協力によりまして、この行政改革推進市民懇話会が実りあるものになるように祈念しております。よろしくお願いいたします。これより着座にて進めさせていただきます。協議案件に入りたいと思いますが、本日の議事録につきましては、これまでの会議と同じく、発言の要点を、委員名を伏せて公表したいと思いますので、ご了承よろしくお願ひします。

議事録の作成及び公表に関する事務処理につきましては、事務局の方でお願いしたいと思ひます。

それでは、議事資料を一括して、事務局に説明をお願いいたします。

高林総務課長 【資料１】「氷見市の行財政改革について」、
 【資料２】「氷見市行政改革プラン取組実績等一覧表」説明

杉本財務課長 【資料３】「氷見市中長期財政見通し（令和7年度～令和16年度）」説明

大嶋会長 どうもありがとうございました。

資料１、２、３につきまして詳しく説明をしていただきました。簡素で効率的な行政の推進ということを念頭において、説明に対するご質問、ご意見、ご提言がございましたらお伺いしたいと思ひますが、いかがでしょうか。それぞれの立場の代表者の方がお集まりいただきましたので、みなさんからご意見をいただければと思ひます。

委員 震災からの復興や震災対応が令和７年以降も続いていくのだと感じました。また、ふるさと納税の寄付金は非常に大きく、これをしっかり活用していけば、収支は黒字になっていくのではと思ひます。

委員 収入支出のバランスは非常に難しいと感じるところではありますが、ふるさと納税について、ブリベンチャーさんなど民間の力を借りて寄附金はどれだけ増えているのか教えていただければと思ひます。

竹口産業振興部長 ふるさと納税の額でございますが、令和４年度が６．７億円、令和５年度が７．５億円、令和６年度が９．１億で増えております。

委員 民間の力を借りて大きく成長できるのだと思います。ふるさと納税の他にも民間の力を借りて変えていける部分があれば、どんどん変えていくべきだと思います。

委員 行財政改革とは、削減のための改革だけではなくて、未来へ投資するという側面もないといけないと思います。限られた財源の中で、削減できるところは削減し、投資できるところは投資する。しっかりその見極めをし、地域の稼ぐ力を底上げしていただきたい。小さくても強い自治体であることを目指していただきたいと思います。

委員 10年前には予想もしていなかった新型コロナの感染拡大や能登半島地震といった非常に大きな災害等があった中で、市長をはじめ、職員の皆さんの財政健全化の努力について敬意を表したいと思います。

職員数について、当面は震災対応のため職員数を維持しなければいけないと思うのですが、一般市民の感覚として、人口が加速度的に減少していく中で、10年後まで530人という職員数を一定数で維持するという考え方について、意見をお伺いしたいと思います。

委員 一番大きい問題は人口減少です。人口減少に対して、空き家を活用し地域の活性化に繋げ、人を呼び込み、人口増に繋げる。このような視点が市を活性化させるベースになるのではと思います。今ほど説明があった将来の収支見込みの話は大事なことです。市の活性化ということでいえば、やはり基本は人だと思います。人口減少への対策として、どういう施策を行うのかお聞きしたいと思います。

大嶋会長 この辺で市当局の考えをお伺いしたいと思います。

小さな費用で最大の効果を出すこと、また職員数の維持に対する基本的な考え方、人口減少に対する方策について、昨日開催しました「まちひとしごと創生推進協議会」では現状に対して熱心に考えておられました。これを踏まえ、説明していただければと思います。

天坂総務部長 まず今回の中長期財政見通しのことについて、前提条件をお話をさせていただければと思います。今後10年間の収支の見通しであります。現在の行政ルールをこのまま続けていった場合の見通しを示しております。また、現在の行政改革案は令和8年度までの計画でありまして、職員定員については令和8年度までは530人になっております。令和9年度以降の中長期財政につきましては、令和8年度において新しいプランを作成する予定です。最初に説明する機会を設ければよかったのですが、今回お示ししたのは、現状の行財政運営で見込みを行った場合にどうなるかというシミュレーションになっております。

歳入は見込めるものを見込み、歳出は起こりうるもので額が出ているものを当てはめて積算をしており、令和8年度までのプランの取り組みを含めて、このような見通しとしております。歳入は増やす努力をし、ふるさと納税は氷見市にとって大変大きな税収となっており、地域産業の活性化にも繋がりますので、力を入れていきたいと考えております。また、企業誘致や企業育成もぜひ進めていきたいと思っております。

出戸企画政策部長 今年度、令和11年度までの「まち・ひと・しごと総合戦略」を策定してまいりました。昨日、その推進協議会において素案を説明し、各委員の皆様からご意見をいただきました。これを踏まえて、パブリックコメントを実施し、最終的に戦略として行っていくものであります。その内容としましては、人口減少のカーブを緩やかにすること、人口が減少しても幸せに暮らせるまちをつくることの中で、魅力的な地域を作る、仕事をつくる、人の流れを作る、結婚出産子育ての希望を叶えるという4つの視点で、今後の人口減少対策をどうしていくか整理をしております。それぞれが大事なポイントですが、特に横断的、重点的に行っていく取り組みといたしまして、3つの視点から整理をさせていただいております。

1つは食や自然景観を生かした戦略的なまちづくりの推進であります。氷見の特徴である食と自然景観をまちづくり、仕事づくりに活かし、稼ぐ力にしていけないかという考え方であります。

2つ目は、城端線氷見線再構築事業を活かしたまちづくりの推進であります。城端線氷見線再構築事業で、氷見線が飛躍的に利便性が高まり、より多くの方に乗車していただくことにより、氷見を活性化させて

いくことが大事だと考えております。取り組みといたしましては、氷見駅前への賑わいづくり、氷見駅から番屋街までの新交通システムの検討を行いたいと思います。また、島尾駅と氷見駅の間に新たな駅の検討を考えております。

3つ目には若者や女性が活躍するまちづくりの推進であります。人口減少の原因として、女性が東京等に進学し戻らない方が多いという分析があり、今後、若者・女性が戻ってこられる環境を作っていくことが大切だと考えております。

今年度、まち・ひと・しごと総合戦略を策定しました。これを着実に実行に移して、魅力あるまちをどう作っていくかですが、食や自然景観をブラッシュアップして活かし、将来の希望を持ち若者や女性が活躍するまちをつくることを目指しております。オール氷見で皆さん方と一緒に作ってまいりたいと考えております。

菊地市長

今ほど人口減少を見据えた様々な対策についてご指摘をいただきました。出戸部長の方からも話がありましたが、人口減少であるけれども、人口が減っていくからといって、寂しい市になっていくわけでは決していないと思っております。夢のあることを市民の皆さんと一緒にチャレンジしていきたいと思っております。そのためにいろんな場面でこのような話を共有しながら進め、皆様方にご協力いただければと思いますので、よろしくお願いいたします。

委員

行政改革プラン取組実績についてお聞きしたいと思います。18番の市役所職員の時間外労働の削減のことですが、ノー残業デーの取り組みは、ノー残業デーに早く帰ったらその分は別の日に流れて働くということになるので、根本的に残業を減らすためには役に立たないと思っております。時間外勤務上限時間を超えた人が14人おられたということですが、その人しかできない仕事のため仕方がなかったのか、日常的にその人は残業が多い方なのかということが疑問です。上司の方も部下の残業時間を把握していると思うので、日頃から残業が多い人については、その仕事内容を見て他の職員に割り振ったり、残業する必要ないと指示したりすれば、これまでにないのではと思います。やむを得ない事情で14名が上限を超えたのかお聞きしたいです。

次に職員提案制度について、実際の提案件数は年間どれぐらいなのか、お聞きしたいと思います。

それから22番のテレワークの推進についてです。災害対策や危機管理のためにもテレワークの推進が必要だと思いますが、氷見市では育児や介護をしている方が申し出た場合に、テレワークをするような制度になっているように見えます。育児や介護をしている方以外も、テレワークが可能な部署からテレワークができる仕組みを作って、積極的に計画的に実施すれば、もっと簡単に目標は達成できるのではないかと思います。また、目標数をテレワークを行った実人数にしていると、職員が申し出る数によって左右されるので、実人数を目標に設定することは適切ではないように思います。

27番のSNSを利用した情報発信についてですが、私も震災を契機にLINE登録しまして細かい情報が早く発信されとても便利だと思っております。

最後に、お昼と午後5時に防災無線から音楽が流れますが、この音楽がほとんど聞こえません。その理由を教えてください。

高林総務課長 ご質問についてお答えさせていただきます。

まず、時間外勤務に関するノー残業デー取り組みのことです。時間外勤務の総時間数の根本的な抑制という点では、まだ他にも方法はあると思いますが、意識づけとして、ノー残業デーはできる限り定時に帰り、メリハリをつけた働き方に改めてほしいと考えております。加えて、どうしたら早く帰れるかを考え、業務効率化の意識をもっと持っていただきたいと思っております。時間外勤務の時間数が減ればよいのですが、メリハリのある働き方、時代に応じた働き方を意識していただきたいという目的でノー残業デーを実施しているものです。

2つ目は、時間外勤務をしているのは、その人にしかできない業務なのか、あるいはいつも残業する人に付いたものなのかということについてです。選挙や災害対応、その時期に特有な業務に携わっていたり、1年のうち限定した季節に業務が集中したり特殊事情によって、一時的に上限を超えてしまう人が発生していると認識しております。

3つ目の上司は部下の時間外勤務を確認してるかというご質問についてです。氷見市役所では市長、副市長、教育長、部長を構成員とした定

例庁議を毎月行っております。その場で各所属の時間外勤務時間数について情報共有を行っており、その中で極端に時間外勤務が多いあるいは前年同月と比較して増えている部署がありましたら、その所属長を通じて改善を促しております。また、毎月の時間外勤務時間の途中経過などを見ながら、必要に応じてその所属長に時間外勤務時間が多くなっていることについて改善を促すような取り組みも行っているところであります。

4つ目のテレワークできる職員は育児や介護などの理由に限定されているのかというご質問についてです。限定しておらず、テレワークを希望する職員には、幅広くパソコンを貸し出しテレワークを行ってもらい、その理由が育児や介護、病気の理由が多かったということであります。テレワークを含めて、時代に応じた多様な働き方の推進を図っているところであります。

篠田副市長 防災無線の音楽についてですが、昨年、防災無線の音楽を氷見市出身アーティストに素敵な曲を作曲していただきました。残念ながら防災無線のスピーカーのクオリティの問題で聞こえづらい状況ですが、スピーカーの取り替えには莫大な費用がかかるため悩ましいところです。

委員 夕方は音楽が聞こえますが、昼だけ聞こえないのはどうしてでしょうか。

赤倉防災・危機管理監 お昼の防災無線のチャンネルが聞こえないということについてですが、防災行政無線においては、今までも地域的には聞こえない場合があります。受託事業者と市職員と一緒に現場に行き確認をしております。現在、同じ問い合わせがあり、確認したところ春バージョンから冬バージョンの切り替えのため、設定に不具合が生じておりました。受託事業者が問い合わせについて確認し対応しており、今は聞こえるようになっております。どこのエリアが聞こえにくいかわせていただければ、調べたいと思います。

天坂総務部長 職員提案研修制度という話がありましたが、今年度は申請がなく 0 件です。

委員 職員提案研修制度でなく、11 番の時間外勤務時間数の改善点に「職員提案制度において提案のあった働き方の見直しに関する取り組みに関する仕組みの検討」と記載があり、この職員提案制度が何件なのかお聞きしています。

天坂総務部長 これまでも職員提案制度はありましたが、年々続けているうちに提案が枯渇した状態になっておりました。今年度、アイデアポストという取り組みを始め「気持ちよく働ける職場環境づくり」をテーマに全職員から募集をいたしまして、49 件の提案がありました。今月下旬に表彰式を行う予定です。様々な提案があり、例えば部署によって繁忙期が異なるため、繁忙期に他部署の職員がお助けできる制度などの提案をいただきました。

時間外勤務の削減に向けては、業務のデジタル化の推進もありますし、繁忙期にチームとしてフォローできる環境づくりや仕事の属人化を廃止することが大切だと思っております。また、市職員が行っている業務を委託することが時間外勤務削減に最も効果的であります、どれが委託に適しているかということをきちんと見極めて業務改善を進めていきたいと思っております。

委員 中長期の財政の10 年分の見通しについてですが、見通しと実績が全く乖離しているのであれば、見通しする意味がないと思います。見通しに対して、実績の確認、検証をされているのかについて教えてください。

また、行政改革プラン取組実績の21 番DX 推進計画の策定と推進については、実績が進捗管理という記載であり、今年も6 年度も評価は達成となっていますが、実績の詳細が分かりません。実際どういう活動をされているのかお伺いしたいです。先にもお話がありましたが、今後職員数も削減が必要だと思うので、AI の活用などDX への取り組みについて教えてください。

天坂総務部長 まず中長期財政見通しの検証の件でございます。A3用紙の資料で説明させていただきます。今年度は令和16年度までの期間でお示ししておりますが、1年前は令和15年度までの期間でお示ししております。比較をすると、例えば令和6年度から令和15年までの推計結果の比較が右上の方にあります。昨年度は令和15年度まで推移を作りましたので、今年度の推計で重複している場所となります。これは一例ではありますが、歳入合計は昨年度策定時は、1,623億9,000万円で、今年度は1,720億3,000万円であり、歳入合計については96億4,000万円伸びているということです。下段は歳出合計について、昨年度の推計と比較したものになります。最終的に決算収支は6億3,000万円増えたことになりまして、昨年度に比べて基金残高が増えていることは、市の貯金がどれだけ増えたかということを示しております。このように1年ごとに前年の推計と重なる部分を確認しております。

10年間という長い期間の収支見込を出しておりますが、スタートとなる年度の決算が大きく動きますと、2年ごろからの数値も変更してまいります。これは見通しという位置づけで行っております。検証について、実際の比較ができるのは決算ベースとなります。令和6年度の決算におきましては、先ほどもお話があったふるさと納税が多く入ったことや普通交付税、特別交付税の増が見込まれ、大きな歳入増があったことが、昨年度の見込みに比べて増えている要因となっております。

委員 10年間という期間は長く、5年先を見通すのも大変だと思いますので、検証やチェックをお願いしたいと思います。

杉本財務課長 見通しは10年の長い期間ではありますが、毎年度の決算で出てきた数字と推計上の予算額ベースの数字はずれが出るため、毎年分析しております。その後の推計につきましても決算値を参照して作っていることから、現時点で見込める数値を試算していくような検証をしております。併せて、現在令和8年度の予算編成に当たっておりますが、投資的な事業、氷見市を元気にするような事業をする際に、財政見通しを参照しております。社会情勢等の変化を踏まえ、毎年度推計作成時や予算編成時、決算時において検証しております。数字のずれが出てくる部分は、ある地点での試算であるため、ご了承いただきたいと思います。毎年想

定外の数字の変更はないような形で検証しながら進めさせていただいておりますので、よろしくお願いいたします。

出戸企画政策部長 DX推進計画につきまして、回答させていただきたいと思います。会議にタブレットを使用するペーパーレス化や入札関係の電子入札システムの導入、LINEによる申請など、行政の中では市民の利便性に繋がるもの、市の行政の効率化に繋がるものという形で整理し進めております。特に、大きなものとして国全体で行われているシステム標準化があり、20業務について統一的なシステムにするという形で市も進めております。これによってDX化が進んでいくものと考えております。今後技術革新が激しい分野であり、AIについても、今年度1月から職員が使えるような環境にしており、より多くの効率性に繋がるものと考えております。

委員 先ほど出戸企画政策部長さんから、若者・女性が戻ってこられる環境づくり、食や自然景観を生かした戦略的なまちづくりについて、詳しく資料を説明いただきましたが、それだけでは十分ではなく、郷土愛が大切だと思います。私の事務所の話になりますが、クライアントは氷見市以外の方が増えてきており、氷見市内の方の割合が2割を切っています。氷見市は自分の育ったまちで、いろいろな思い出があり、人や自然、お金だけではない繋がりがあり、郷土愛というものを経済の中にも広げたいと思っています。春中ハンドについてですが、氷見市は伝統的にハンドボールが盛んであり、楽しみにしてる市民の方も多いと思います。全国からの交流人口を増やしたり、氷見市を中心に情報共有できたりし、大人になっても氷見市に特別な思いを持つ人の郷土愛づくりをどのようにしていくかといったことも経営理念の一つとしてほしいと思います。

また、若者や女性が働きやすいような環境づくりがとても大事だと思います。職場によって要望の内容は違ってきますが、女性職員の要望を聞き、細かく実現していくことが職場愛へ繋がっていくと考えます。

私は現在、税理士会データ通信労働組合でDX化の活動を行っております。事業所ではコンピューターに指示されたとおりに入力しているだけで、仕訳したデータの分析は、会計事務所さんあるいはデータセンタ

一が行い、定型的な戦略を提示していますが、企業競争力を高めるような経営現状の分析が必要だと思います。日本の事業所は、オフコンを使用し、第三者がデータ分析し統一的な形で提供する情報をもらっており、独自の経営方針や創業者の考えが反映されておらず、これでは多様性に対応できません。D X化を通じてデータをもっと経営に活かして欲しいと思います。これまでは情報格差がありましたが、東京でも氷見でも情報格差はありません。私もA Iを利用し、A Iが作成した資料を手直ししており時間短縮になっておりますし、過去の自分の意見解釈についてデータをアップしていると、新しい問題に対してA Iが過去のデータを参考に回答を考えてくれると聞いています。氷見市でもA Iを活用していただきたいと思います。

有島教育長 郷土愛について、回答いたします。氷見市では、ふるさと氷見を愛し、次代を担う人づくりという基本理念のもと、氷見市の教育の良さを生かして人づくり、学校づくり、ふるさと教育に取り組んでいます。ふるさと学習の中で、地域の皆様に支えていただきながら、生き生きと学習する子どもたちの姿を見ることができます。これからもその素晴らしい学び、活動する姿をどんどん発信していく形で進めていきたいと思っています。

出戸企画政策部長 先ほど申し上げた「まち・ひと・しごと総合戦略」においても、郷土愛づくりについて、しっかり位置づけております。小中学校だけではなく氷見高校の魅力化において、ふるさと氷見について学ぶH I M I 学というものがあり、しっかり取り組んでいただいております。氷見市にとって一番良いのは、小中高校が連携しながら、教育を行っていくことだと考えております。

また、D Xについてですが、今回総合戦略を策定する中においても、データを分析し、それを加工し見える化して、こういう課題があるから、こういう取り組みをしようという形で対応しております。

委員 私は労働関係団体から来ており、特に時間外労働時間と有給休暇の取得について関心があります。時間外労働時間については先ほどお話がありましたので、有給休暇の取得についてご質問します。行政改革プラン

取組実績の１７番の年次休暇取得日数について、数値目標で１０日以上とあり、目標達成になっていますが、日数で目標や実績を考えるのはどうなのかと思います。入庁１年目の方と長年勤めている方は付与日数が異なりますので、取得率という考え方で見ていかれた方が良いと思います。この取得率について教えていただきたいです。

また、郷土愛、ふるさと納税の話もあり、ふるさと納税額９億円とのことでしたが、氷見市民で他自治体にふるさと納税している場合について把握されているのか教えてください。

高林総務課長 今のご質問につきましては、有給休暇を１０日間以上取得した率ということでしょうか。

委員 会社によって有給休暇の付与日数が異なると思いますが、労働基準法上は入社した年は１１日、１年ごとに付与日数が変わり、最大２０日間付与されます。有給休暇の取得目標を平均１０日間にして、２０日間付与される人が１０日しか使わなかったら取得率５０％となり、低いと思います。

高林総務課長 この目標の設定につきましては、労働基準法に則した形にはなっていないと感じております。その辺につきましては、新たな行革プランを策定時の目標設定の際には、現状に応じた目標設定にしていきたいと考えております。取得率につきましては詳細が手元になく、毎年１２月になりましたら、有給休暇取得日数が少ない部署に対しては年内にできる限り取得するように促しているところであります。

委員 DX関係やAIの利用について、氷見市としてどんな取り組みをしておられるのか関心があります。先ほどの回答の中でシステムの統一をされるということでしたが、進めていただければ良いと思います。

長期の財政見通しについて質問します。Ａ３の資料では、全体的に歳入が減っていき歳出は変わらず、そこを財政基金等で取り崩しながら調整するという計画に見えます。基金残高のところで純財政規模の１０％である１２．８億円を若干下回るといようなコメントもありました。基金残高は、今後取り崩しながらも、特別交付税などを入れたものが再度

基金が増えていくなど、増減を繰り返すものなのかどうか。数字だけ見ると基金がどんどん減っていくような計画になっており、財政的にあまり良くないというようなニュアンスのコメントもあり、詳しく教えていただければと思います。

天坂総務部長 基金残高は全般としましては、財政調整基金と減債基金、特定目的基金がございます。財政調整基金は年度間で資金のやりくり等をするために積み立てているものであり、減債基金は借入れ金を例えば20年間で返済する場合の積み立てなど借金返済のための基金でございます。特定目的基金は、例えば、ふるさと納税等でいただいたお金を必要なときに取り崩して充てるものであります。この3つが市の貯金となります。

基金の残高であります、決算が出るたびに余剰金が出たら、繰越した内容の2分の1は、必ず財政調整基金に積み立てなければなりません。この額は決算のたびに大きく変動したり、その年度によって事業が必要になって基金を取り崩すということもありますので、毎年度変更してまいります。令和6年度の3つの基金の残高につきましては、昨年に比べまして増えおりますが、基金残高については増減いたします。

委員 先ほど貴重なご意見を聞かせていただきました。行政改革に関しては今回出ている意見を踏まえて、市の皆さんにお任せしたいと思います。

食、景観についてお話しします。食については私も一端を担っておりますが、生産者が高齢化しております。担い手がおらず、人口減少も伴ってより一層高齢化が進んでまいります。80歳を過ぎてまだ現場で頑張っている方もいらっしゃいます。若い世代、40代50代の世代は多くありません。これは氷見の皆さんとともに考えていかなければならない問題だと思っております。

もう一つは景観についてです。番屋街の方の比美乃公園が綺麗になっており、立山もすっきり見えます。海岸線が整備されて漁港も6つあり、震災の影響でかなり壊れましたが徐々に再建されています。海岸線には緑地帯がたくさん作っており、比美乃公園は草刈りをまめにしております。ところが、北の方の緑地帯では雑草が多い時があります。私の家からも海越しの立山が見えますが、緑地帯の木が伸びると邪魔になります。以前は、よく剪定されていましたが徐々に減っており、雑草

の草刈りも減っております。すぐに綺麗にしてほしいとはいいいませんが
気になります。

人口が減っておりどれだけ増やせるのか、魅力ある氷見市とは何なの
か、机上の空論ではなく、現場へ行って見てください。本当に厳しいで
す。若い力がいかに大切かということを念頭に置いて行動しなければなら
ないと思っております。

竹口産業振興部長 全ての産業において労働力不足ということが起こっています。水産業
に関しては、漁業者の新規就業者確保に向けて、昨年度から支援事業を
行っており、来年度ももっと力を入れて行ってまいります。漁協さん
におかれましてもご協力をお願いしたいと思っております。

自然景観を活かすことについて来年度考えており、景観の確保という
観点から樹木の管理についても検討していきたいと思っております。

委員 外国人労働者の漁業就業者がかなり増えてきて、苦情が出ていると聞
いております。外国人労働者への対応を考えていかなければならないと
思います。

竹口産業振興部長 漁業就業者の研修生について、漁協の方で就業者の面倒を見ていた
いておりますが、外国人労働者への対応については、市も一緒に取り組
んでいきたいと考えております。

委員 デジタル化については、集めたデータを有効に使うことが大切だと思
います。データは、環境、交通、空き家、防災、行革、まちづくりなど
目的に沿ってしっかり使われて意味を持ちます。また、本当のデジタル
化は、アナログの併用を忘れず、高齢者やデジタル弱者を置き去りにし
ないことです。窓口をデジタル化しても、職員を減らさず窓口担当を必
ず置いてください。そうしないと何のための行革なのか分かりません。
氷見市民の人のため、市民が幸せになるため、不幸な人を作らないため
です。分かっておられると思いますが、改めて伝えたいと思います。

また、最近若い市職員の方にお会いして話を聞きますが、市職員の方
は大変です。幹部の方が現場の職員の話聞いてあげて欲しいです。笑

顔で現場を回したら行革が必ず失敗します。職員の実務を知ることが一番大切です。

国交省の3D都市モデルP L A T E A U、国交省が作っているデジタルミニチュアをご存知でしょうか。20年前に日本商工会議所青年部連合会北信越会長で2年間全国を回り、どんなまちづくりをやっているのか見て提案をしてきました。4つ目のミニチュアを提案すると、いろいろな方から意見をもらい付け加えた上で、デザイン案を出しました。市の会議に出し、具現化されたのが番屋街です。ミニチュアランドスケール（ジオラマ）を活用したまちづくりの提案をしたいと思います。これは目に見える行革、まち作りのために行います。ワークショップで行うと未来的なビジョンが目に見え、市民が理解、共有できることに繋がります。市の一方的な提案、行革推進委員の提案ではなく、市民全員の提案になります。震災後にもっと良いまちにしていけるには何が必要かを目に見える形にできるのがランドスケールです。これを簡単に作れるのが先ほどお話した国交省のソフトであり、活用されることを提案します。

大嶋会長 課題の共有、共通理解の手法を松原委員が提示してくれました。また、ペーパーレス化を推進しても紙で情報を得ている人も忘れず対応することがお年寄りも大事にしていくことに繋がると思います。

大変貴重なご意見、そして、それに対するお答えなど、充実した会議であったと思います。熱心なご質問あるいはご提案、どうもありがとうございました。これで本日の案件は全て終了いたしましたので、事務局に進行をお渡しします。

後藤主査 大嶋会長、林副会長ありがとうございました。閉会にあたりまして、市長から一言ご挨拶を申し上げます。

菊地市長 委員の皆様方には長時間にわたりまして、貴重なご意見を賜りまして、ありがとうございました。

行財政改革についてはしっかり行っていく必要がありますし、職員の働きやすい、働きがいのある職場づくりも取り組んでまいります。合わせて、人口が減って財政も厳しくなっていきますが、決して萎縮するこ

となく、未来への投資もしっかり行っていく必要があると思っております。

部長の方からも紹介がありましたが、新交通システム、氷見線の新規駅の設置、それから氷見線を中心にしたまちづくりなど、氷見の未来に向かって投資をしていかなければいけない事業をこれから考えていかなければなりません。メリハリのある財政運営を行いながら、こうしたチャレンジに当たっては、市民の皆様お一人お一人のご理解が必要であります。松原委員からご紹介あった手法も含め、どうやったら市民の皆さんに伝わるのかということを考えながら、氷見市の行財政運営をしっかりと行ってまいりたいと思っております。委員の皆様方には、今後ともご理解ご支援、ご協力いただければと思います。本当に本日はありがとうございました。

後藤主査 本日はこれをもちまして閉会といたします。
誠にありがとうございました。